

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 10 日現在

機関番号：17201

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531144

研究課題名(和文) 米国ワシントン州における多文化音楽教育の原理に関する研究

研究課題名(英文) A Study of the Fundamentals of Multicultural Music Education at the state of Washington in the United States

研究代表者

荒巻 治美 (ARAMAKI, harumi)

佐賀大学・文化教育学部・准教授

研究者番号：40315180

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、アメリカ合衆国ワシントン州における多文化音楽教育の原理について明らかにすることを目的としている。多文化音楽教育は、一つの地域に焦点をあてて、その民族構成や社会的環境などの視点から明らかにされる必要がある。本研究では、全米の中でも先進的な多文化教育を進めているワシントン州に着目し、学校における音楽教育実践を発掘し、多文化音楽教育の視点から考察した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of the present study is to clarify the fundamentals of multicultural music education at the state of Washington in United States. For multicultural music education study, it is necessary to analyze the ratio of each ethnic group and the social environment at a specified place. In the present study, I shall focus on an advanced area in multicultural education, the state of Washington. I discover music education at schools and analyze it from the point of view multicultural music education.

研究分野：音楽教育学

キーワード：多文化音楽教育

1. 研究開始当初の背景

これまで、科研助成を受けた一連の研究の中で、アメリカにおける音楽教育の基盤としての多文化音楽教育は、生活主義音楽教育の展開とともに、第二次大戦前後に取り入れられてきた。すなわち、音楽教育の多文化性は、程度の差こそあれ、常にアメリカにおける音楽教育の基盤となってきたと考える。また、多文化音楽教育は、地域の社会的、民族的、文化的環境に規定されるため、生活主義の視点が不可欠である。多文化音楽教育は、歴史的研究、資料研究、単発的研究ではなく、具体的な学校教育実践を基盤として明らかにされる必要があると思われる。そこで、先進的な多文化教育を行ってきたワシントン州を中心に、学校区、学校単位などそれぞれのレベルから検討し、それらに内在する原理を明らかにするという着想に至った。

先行研究としては、1) 資料分析による研究、2) 全米レベル、州レベルなど各レベルの個別的・単発的研究の二つがある。

資料分析による研究に関しては、教科書や、全米芸術教育標準、実践報告などを中心として、文献研究を中心に研究が行われてきた。しかし、多文化音楽教育は、その地域独特の様々な要素に規定されながら構想・展開される。従って、一つの地域に焦点を絞り、フィールド・ワークも取り入れながら、体系的・構造的に明らかにされる必要がある。また、全米、州、学校レベルなど個別的・単発的研究は行われてきている。しかし、多文化音楽教育は、一つの州を中心に各レベルを縦断的・体系的に明らかにする必要がある。地域の多文化性が基盤となるため、多文化音楽教育の質は、地域の詳細な実態から各レベルとの関連性を明らかにすることによって初めて現れてくるからである。

2. 研究の目的

本研究は、アメリカ合衆国ワシントン州における多文化音楽教育の原理について明らかにする。ワシントン州は、全米の中でも、多文化教育に関する先進的地域である。多文化音楽教育は、地域のコミュニティの実態と密接に結びついて展開されるため、一つの地域に焦点を当てて、その民族構成、文化環境などの文脈から、明らかにされる必要がある。本研究では、シアトルの大学の音楽教育研究者を研究協力者として、ワシントン州における多文化音楽教育のあり方について明らかにしようとするものである。

3. 研究の方法

本研究の研究計画・方法については、以下の通りである。

- 1) 多文化音楽教育に関して先行研究において明らかになっていることを整理する。
- 2) 国内において入手できるワシントン州における多文化音楽教育に関する資料の探索・収集を行う。
- 3) ワシントン州の音楽教育研究者の協力のもとで資料探索・収集を行う。
- 4) ワシントン州の多文化音楽教育の原理、我が国における多文化音楽教育への示唆について分析・検討・報告する。

平成24年度には、研究全体のフレームワークを整備することに重点をおいた。研究機関における研究・調査計画を策定し、具体的な作業を進めるための基礎作業を行った。我が国で入手できる先行研究や資料を確認し収集した。また、国内で入手困難な資料については、アメリカ合衆国ワシントン州に出張し、研究協力者とともにも多様な資料を収集した。平成25年度には、ワシントン州の音楽教育研究者を招聘し、同州の多文化音楽教育の実態について情報提供を頂くとともに、多文化教育的視点から我が国の音楽科教育実践を検討いただき、示唆を頂いた。平成26

年度は、研究の最終年度であるため、収集済みの資料を整理・分析するとともに、新たに必要とされる資料を収集するためにワシントン州に出張した。研究協力者とともに資料を補完した。

4. 研究成果

ワシントン州の多文化音楽教育について、特に先進的な取り組みを行っているのは、シアトルを中心とした地域である。この地域では、ネイティブ・アメリカンを始めとして、アフリカ系やアジア系などの移民を古くから多く受け入れてきた歴史があり、現在も多様な民族による住民構成となっている。それらを背景として、多文化共生を図るための異文化理解の一助として、多様な教育的施設が存在している。これらは、多文化音楽教育の基盤となる社会的・文化的環境であるため、まずは、これら施設の存在の発掘とその教育的機能について検討した。また、各学校区において展開されている音楽科教育の実践について、音楽担当教師からの聴き取り、当日実施された授業の記録などをもとに明らかにした。さらに、それらを踏まえたうえで、多文化音楽教育の在り方について考察した。

(1) 社会的・文化的環境

多様な民族が自国の社会習慣や文化を紹介するための主な施設には、ウィング・ルーク博物館、パーク自然史文化博物館、北西アフリカ系アメリカ人博物館やシアトル美術館、またスウェーデン文化センターのような公民館の機能を持ったものなどがある。ウィング・ルーク博物館は、中国、日本などからの移民が多く居住しているインターナショナル・ディストリクトに位置している。アジア系アメリカ人を中心とした移民の歴史や文化を紹介するために、当時の移民の生活で使用された衣食住などに関わる具体的な資料が展示されている。また、学校教育の一環

として機能するような多くの教育的プログラムが用意されている。博物館の展示物をスタッフの解説とともに見て回り、実際に工作などのプロジェクトを行うことができる。また、所蔵する教師用の教育資料として、アジア系アメリカ人の歴史カリキュラム・モジュール、日系アメリカ人カリキュラム・ボックスなどがあり、ウェブ上にも資料が用意されている。パーク自然史文化博物館は、ワシントン大学敷地内にあり、ワシントン州の自然史や文化について総合的に紹介するための施設である。ネイティブ・アメリカン、アジアの文化などが展示品などによって紹介されている。博物館によると、毎年3万人以上の子どもたちが、博物館の教育プログラムを受けているという。北西アフリカ系アメリカ人博物館は、アフリカ系アメリカ人の歴史、芸術、文化を紹介するための施設である。アフリカ系アメリカ人が比較的多く居住するセントラル・ディストリクトにある。当博物館でも、学校教育の一環となる教育プログラムを設けている。シアトル美術館は、ヨーロッパの芸術作品などを展示しているのみならず、ネイティブ・アメリカンの伝統的な衣装、生活道具、楽器などの展示品も数多く所蔵している。スウェーデン文化センターは、北欧とアメリカ合衆国との相互理解に資することを目的として設立されたものである。これに関する様々な行事が企画実施されているが、それに限らず、公民館のように多様な文化サークルの活動場所としての機能も担っている。たとえば、エストニア系アメリカ人が自己のルーツである文化としてエストニアン・ダンスを学ぶためのサークルもある。シアトルには、この他にも多様な民族のための施設があり、移民への援助を行うと同時に、アメリカの多文化性の基盤となっている。

(2) 多文化音楽教育の動向

ワシントン州の教育は、地域ごとに実態が異なってくる。シアトルのA小学校と、ウォーリングフォードのB小学校、エドモンズのC小学校、ショアラインのD小学校などの教育実践を検討した。これらは、地域ごとに民族構成が異なっているうえ、教育環境に差異がある。たとえば、シアトル中心部の恵まれた環境にあるA小学校に比べ、エドモンズ地域のC小学校では、学校が独自に音楽教科書を購入できないため、保護者の寄付に頼っているうえ、学校に音楽教師が所属しておらず、一人の音楽教師が巡回訪問しているという現状もある。

教員レベルでの多文化音楽教育に関する研修も行われている。シアトルの教員養成大学では、現職教員を多文化音楽教育の側面から啓蒙するための「民族音楽学」や「世界の民族楽器についてのワークショップ」も行われている。

(3) 多文化音楽教育の実践

シアトルのA小学校は、比較的富裕層が多く住む地区にある。学校は公立学校であり、試験により入学を許される。幼少からスペイン語、日本語など語学の授業を充実させており、教授陣には、ネイティブ・スピーカーを揃えている。校内の掲示物などにも多様な国々の文化を紹介しており、具体的には、中国のコスチュームや、世界地図と各地に居住する子どもたちの写真が展示されており、廊下の壁一面に各国の国旗が掲示されている。当日視察したハワイの音楽とダンスの授業では、ハワイ音楽専門のゲスト・ティーチャーと当校音楽教師、および体育教師による合同授業が行われていた。ダンスや、ハワイの言語による歌詞を学ぶ。学校付近にはパーク博物館があり、ハワイの生活や文化、ダンスに用いる衣装や楽器が展示されていることを考えると、充実した多文化音楽教育を展開できる環境にある。

教師の人種や民族的なアイデンティティは多文化教育の基盤であり、まず自己のそれを認識し、それとは異なる子どもたちのそれを理解する必要がある。ウォーリングフォードのB小学校のある音楽教師は、自らのルーツを調査し、黒人奴隷だった祖先を含め、代々の経歴を子どもたちに公開している。当日の音楽授業では、イギリスの歴史的に古い音楽、アイルランドの音楽などを、ダンスとともに学ぶ学習が行われていた。当該授業は、補助教材によるもので、通常は、教科書「メイキング・ミュージック」の指導計画通りに授業を行っている。この教科書は、世界の多様な民族の伝統的な音楽を文化教育的な視点から採用するとともに、表現活動や音楽構造に関する学習を中心にしながらも、関連学習として「社会科的内容」「文化的内容」の学習を組織しているものである。当校では、この教科書を使用することによって、多文化音楽教育を進めると同時に、それを補完するための独自の学習指導も行っている。

エドモンズのC小学校の音楽教育は、当校に所蔵されている教科書に忠実な授業を行っている。この教科書は、ほとんど民族音楽を使用しておらず、多文化教育的視点は薄く、従来の西洋音楽の理論を体系的に教えるものとなっている。その中でも、当日視察した授業は、比較的多くの民族音楽を扱っていた。ゲームを通して、アフリカの様々な民族楽器を学習するものであったが、やはり多文化教育的側面は薄く、多様な楽器の音色と形状についての学習であった。

ショアラインのD小学校は、障がい児学級や進学クラスのある大規模な学校である。本校が所蔵している教科書は「ワールド・オブ・ミュージック」であるが、あまり使用されておらず、コダーイ・メソッドの資格をもつ音楽教師が、独自の音楽教育実践を行っていた。

本研究では、ワシントン州の中でも先進的

に多文化音楽教育を行っているシアトル周辺を中心に、地域ごとに、社会的・文化的環境や民族構成を視野に入れながら、音楽教育実践について検討した。我が国における多文化音楽教育のあり方について検討することが今後の課題である。

5．主な発表論文等
〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

〔その他〕
なし

6．研究組織

(1)研究代表者

荒巻 治美 (ARAMAKI ,Harumi)
佐賀大学・文化教育学部・准教授
研究者番号：40315180

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし